

適切な応答ができるようにしよう

英 語 第3学年
穴水町立穴水中学校

1 事例の概要

(1) 本校研究テーマ

本校生徒の実態から研究テーマを『一人ひとりの確かな学力の向上をめざして－基礎・基本の習得と活用力の向上－』と設定し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と習得した知識や技能を活用した学習に取り組む必要があると考え、授業研究会を中心に研究を進めている。

(2) 3年生の実態と具体的な取り組み

英語科では研究のねらいを達成するため、①基礎的・基本的な知識・技能の定着（習得）、②日常生活で実際に起こり得る場面を想定したスピーキング活動（活用）に継続して取り組んでいる。

3年生は昨年度4月のNRTテストでは4領域の中で「話すこと」の問題の正答率が低く、一年間「話すこと」の力をつけることを目標に、「①対話文での基本文の導入」「②音読トレーニング」「③本文暗唱テスト」「④基本文型の定着を図る言語活動の工夫」「⑤スプリングテスト」の取組を行ってきた。その結果、今年度4月のNRTでは、課題であった「話すこと」の本校正答率（全国比 H19 0.5% ↓ ⇒ H20 11.2% ↑）がかなり向上した。しかし、「伝えたい内容を整理して伝える」、「適切な表現を用いて書く」という部分が弱かった。そこで本年度は、これまでの取組に加え、「伝えたいことを整理してわかりやすく伝える」という表現力の育成を目指し、表現活動に重点を置いて取り組むことにした。本事例は「話すこと」の取組例である。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の見どころ

- ・ 相手を誘ったり、提案したり、相手から求められた内容について適切に対応ができる。

(2) 指導計画と評価規準 【チャレンジコース】（本時 2/2）

時	ねらい (◎) と学習活動 (・)	評価規準
1	◎Would you like to ～? Shall we～? の形・意味・用法を理解している。 ◎本文の内容を理解できる。 ・対話の内容理解と目標表現を用いた応答練習をする。	・聞いた内容についてその概要をつかむことができる。 [理解の能力] ・相手を誘ったり、提案したりする場面において、相手や状況にふさわしい表現を理解している。 [言語や文化についての知識・理解]
2	◎相手を誘ったり、提案したり、相手から求められた内容について適切に応答することができる。 ・目標表現を用いてペアで対話をする。	・目標表現を用いたロールプレイに取り組もうとしている。 [コミュニケーションへの関心・意欲・態度] ・目標表現を用いて伝えたいことを正しく伝えたり、求められた内容について適切に応答することができる。 [表現の能力]

(3) 指導上の工夫

① 指導法の工夫

- ・ 習熟度別少人数授業
- ・ 習熟度に応じた発展的な学習

【チャレンジコース例】 本時（2/2）では、発展的な学習として誘いを受ける・断る場面での表現活動を取り入れた。場所や時間を決める、理由や日程の変更を提案するなどの英文を工夫させることで、話を継続する力、コミュニケーションを円滑にすすめる力を身につけさせたいと考えた。

- ② 学習内容定着のための工夫
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の定着のための音読トレーニング・暗唱の実施
 - ・ 活動場面での目標の設定
 - ・ 話す能力を高めるための表現活動の工夫
 - 日常生活での言語使用を想定した表現活動の重視
 - 目標達成のためのスモールステップの設定

3 指導の実際

* 評価 (●) と支援 (○)

<p>【Step2 対話練習】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間内にできるだけ多く練習するように練習回数の目標を設定する。
<p>交流する場面</p> <p>6 発表する。</p> <p>【Step3 発表と相互評価】</p> <p>① 発表Ⅰ（小グループ発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表 ・ 発表練習 <p>② 発表Ⅱ（全体発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表 ・ 相互評価 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">* 発表態度はどうだったか</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">* 声の大きさ・速さは適切だったか</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">* 対話の流れはスムーズだったか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Yes: I'd love to. Where shall we meet? 行きたい気持ちを伝え、会う場所や時間などを決める。</p> <p>No: I'd love to, but I have other plans. 行きたいけど行けない理由を伝える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標表現を用いたロールプレイに取り組もうとしている。(発表) ○ 活動に取り組もうとしていない場合は、視点を与えたり、他のペアの取り組みを参考にさせたり、適切な声かけをする。 途中で対話が止まる場合には、つなぎ言葉やあいづちを工夫しながら話を続けるようにアドバイスする。 ・ 発表で言えなかった部分を確認して、もう一度発表練習をさせる。 ・ 評価の観点を確認する。 ● 目標表現を用いて伝えたいことを正しく伝えたり、求められた内容について適切に応答することができる。(発表) ○ 誘うこと・提案することができていない場合は、目標表現を提示しリピートさせる。また求められたことに適切に応答ができていない場合は、話し手の質問の内容を確認し、それに対する適切な表現を提示し口頭練習をする。 ・ 工夫した会話をしているペアは認め、全体に紹介する。 ・ 円滑なコミュニケーションとなるために有効な手段や表現を確認して口頭練習をする。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 課題確認後、自分の考えを持つ場を設定し、お互いに意見交換したことで、それを活かした文脈のあるスキット作り・発表ができた。
- ② 繰り返し表現活動に取り組むことで、辞書を使わない生徒が増え、本時でも一学期の既習表現を上手に使う簡単な英語で表現することができた。
- ③ 発表後の相互評価では「このような展開があるのか」、「・・・と言う表現がうまい」など、交流を通じた気づきがあり、自分のスキットの表現を見直すことにつながった。

(2) 課題

NRT や基礎学力調査、スピーキング活動等の結果から表現分野の改善が見られたが、場面や相手に応じて適切に表現する、まとまりのある内容をわかりやすく伝えるという点については課題が残る。その課題克服のためには、表現活動に必要な語彙や基本文の定着を図ることが必要である。そして、実際のコミュニケーションを想定した場面設定でのスピーキング活動、まとまりのある英文で自分の考えを表現するライティング活動に取り組み、学習した表現の運用能力を高めていきたい。